

(事後評価)

持続可能な女性研究者支援、筑波大スタイル

(実施期間：平成 21～23 年度)

実施機関：筑波大学（総括責任者：山田 信博）

プロジェクトの概要

女性研究者が研究活動を継続するに当たって生じる、出産・育児等との両立、研究を中断することによる不公平な処遇などの諸課題を解決するために、

- ①男女共同参画推進室内に「女性研究者等相談室」を整備するとともに、女性研究者支援情報交換Webサイトを開設し、女性研究者に対する支援体制及び相談体制を確立する。
- ②ロールモデル紹介等のシンポジウムを開催するとともに、男女共同参画推進に関する学部及び大学院共通科目を設置する。
- ③男女共同参画推進室が大学院博士課程研究科の女性研究者採用計画の策定などを支援する。
- ④研究論文等を発表するため出張する時に、保育所、ベビーシッター等を利用するための経費を支援する。
- ⑤男女共同参画に関する研修会を実施し、女性研究者の採用、昇進等に関する意識啓発を図る。

等の事業を筑波研究学園都市内の研究機関と連携を図りながら総合的に推進する。また、これらの事業は科学技術振興調整費により雇用した人材が中核となって推進するが、職員の人材育成を並行的に実施し、事業期間終了後も本学が引き続き事業を推進できる体制の整備を図る。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の内容	システム改革の成果	実施体制	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性研究者のニーズに応じたきめ細やかな取り組みを意欲的に推進し、全学的な支援体制を構築した。筑波研究学園都市の研究機関を繋ぐ女性研究者ネットワークを構築し、シンポジウムの開催、研究者交流、相談窓口の連携等、多角的な取組を実施し、筑波研究学園都市における男女共同参画推進の中核となっている点が評価できる。今後は、各研究科において女性教員採用方針及びその実施計画を策定し、女性教員の採用を促進することを期待する。

・**目標達成度**：両立支援、ネットワーク構築、裾野拡大等の取組を、ほぼ所期の計画どおり実施した。しかしながら、女性教員採用比率、次世代育成支援対策推進法の認定等の目標は達成されていないため、今後は学長のリーダーシップの下、自然科学系分野の女性教員採用増に向けた取組を強化することを期待する。

・**取組の内容**：アンケート調査及びヒアリング調査の分析結果を踏まえ、女性研究者のニーズに沿った取組を展開しており評価できる。女性研究者の裾野拡大の取組については、効果の検証を期待する。

・**システム改革の成果**：女性役員の誕生、男女共同参画に係わる大学院共通科目の開講等、システム改革の成果が見られる。さらに、筑波研究学園都市における男女共同参画を牽引するシステム改革の推進役を担ったことが評価できる。システム改革の成果が女性研究者の採用促進に繋がることを期待する。

・**実施体制**：学長・副学長の下に男女共同参画推進室を設置し、全学的な実施体制を整備した点が評価できる。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：取組を継続するための体制が整備され、予算も確保されており評価できる。今後は取組の継続的な実施とともに、さらなる展開を期待する。